

「3年間を振り返って」

10組 奥野 誠士

「なんで日櫻に入学したのだろう？」入学当初僕が思った正直な気持ちだ。それは僕が入学前に抱いていた高校生活とは程遠いものでショックだったからだ。新しい友達、環境、全てにあまりなじめなかった。だから、最初の頃は自分を隠しながら生活していた。しかし心のどこかで、「時間が経てばなじめる。」そう思っていた。だが、そんなことはなかった。周りが楽しそうに会話しているのを見て、焦っていた。そんな時に席の近い人達が、頻繁に話しかけてくれるようになり、少しずつなじめるようになった。ただ、多くの人達が集まるのは、話がうまくて面白い人の周りばかり。それに正直嫉妬していた。このように悶々とする日々を送りながら1年生を終えた。

2年生になると、担任の先生が、よく考え方の話をしてくれた。その話を聞いているうちに、だんだんと物事について考えるようになった。そして、人との関わり方を今までと一変させ、ガラッと変えてみた。その結果、毎日の学校が楽しくて楽しくて仕方がなくなった。今までの人目を気にして猫をかぶる自分がバカバカしく思えた。「人目を気にせず、自分を出す」。それが自分を知ってもらったり、関心を持ってもらったりすることになると分かった。だから、「自分に正直に生活しよう。」そう思えるようになった。

3年生では大きな行事もなく、思い出はあまりないが、強いて言えば受験だ。僕は割と最初の方から勉強のギアを上げていた。しかし、肝心の進路についてはどこに進もうか、とても迷っていた。「この学部、学科は将来が良くない」と、父によく言われて、途中何がしたいのかよくわからなくなった。そんな時、先生が「自分のしたい事をするのが一番」だと言ってくれたおかげで、初心に戻ることができた。全てにおいて、ムダという事はない。「必ずどこかで繋がっている。」そう信じることができた。この3年間は僕が生きてきた中で最も濃い時間だった。「人とのコミュニケーション」、それを日櫻で学べて良かった。濃い時間を過ごせたのは紛れもなく、先生方、仲間達のおかげだ。とても感謝しています。ありがとうございました。